

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

平成31年2月号



【有田振興局】2/15 温州みかんの剪定研修会を開催！
～アグリビギナー等技術経営研修～

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

頁数

- | | |
|--|----------------|
| I 海草振興局 | 1 - 2 |
| 1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】
～貯蔵に適する温州みかん優良系統の食味評価調査を実施～ | |
| 2. 和海地方総合農政推進協議会が県外研修会を実施 | |
| II 那賀振興局 | 3 - 7 |
| 1. 重点プロジェクト【GAP 推進による安全安心農産物産地の確立】
～農業者団体等への GAP の周知活動～ | |
| 2. 紀の川市 4 H クラブ現地研修会～低コスト簡易ハウスの活用～ | |
| 3. 果樹・野菜の技術研修会を開催 ～紀の川市環境保全型農業グループ～ | |
| 4. 那賀地方有機農業推進協議会の講演会が開催されました | |
| 5. 那賀地方農業士連絡協議会県外研修 | |
| III 伊都振興局 | 8 - 9 |
| 1. 重点プロジェクト【省力化と新品種導入による柿産地の振興】
～柿葉利用モデル園の剪定～ | |
| 2. 校務員向け花栽培研修会を開催 | |
| IV 有田振興局 | 10 - 14 |
| 1. 和海・有田合同農業女子プロジェクトを開催！ | |
| 2. 温州みかんの剪定研修会を開催！ | |
| 3. 平成 30 年度有田地方農業者団体連絡協議会研修会が開催されました | |
| 4. 未来の農業者を育成！ | |
| 5. 有田地方農業士協議会女性部会研修会を開催！ | |
| 6. 農業労働力確保に関する先進地研修を実施 | |
| V 日高振興局 | 15 - 19 |
| 1. 重点プロジェクト
【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】
～「露茜」の導入推進・生産安定技術の実証と「ウメ斑入果病(仮称)」のまん延防止～ | |
| 2. 日高川町 4 H クラブ員が日高川町農業祭にて焼き芋販売 | |
| 3. 日高川町農業祭にて振興局の農業関連活動を PR | |
| 4. 日高地方「花き品評会」、「花き展示会」を開催 | |

5. 平成30年度「農トレ！ひだか」～第3回セミナー開催～
6. 日高地方生活研究グループ連協が現地研修会を実施

VI 西牟婁振興局

20-27

1. 西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催
2. 地元のジビエを使った料理講習会を実施
3. 一番茶の茶摘みに向けて、いざ春整枝！
4. 川添緑茶研究会が宇治茶を学ぶ
5. 西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会が先進地視察研修を開催！
6. 田辺生活研究グループ連絡協議会が「ジビエ料理」をPR
7. 第2回女性起業支援研修会「作り手の想いを届ける～くくたちの場合～」
8. 田辺生活研究グループ連絡協議会が加工講座を開催

VII 東牟婁振興局

28-29

1. 古座川町平井でゆずせん定講習会を開催
2. 新宮市熊野川町生活研究友の会が「熊野川なれずし交流会」を開催

VIII 農林大学校

30

1. 1年生が金剛山登山を実施
2. 平成30年度卒業論文発表会を開催

IX 農林大学校 就農支援センター

31-32

1. 平成30年度技術修得研修(第2班)が修了
2. 社会人課程(離転職者等職業訓練「農業科」)修了式を開催
3. UIターン就農相談フェアを開催
4. 特別研修「柑橘類の整枝・せん定」を開催

X 経営支援課(農業革新支援センター)

33-35

1. 県4Hクラブ連絡協議会が全国農業青年交換大会バススクール和歌山コースを開催
2. むらとくらしを考える会議を開催
3. 全国青年農業者会議において県内の4Hクラブ員が農林水産省経営局長賞を受賞

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～貯蔵に適する温州みかん優良系統の食味評価調査を実施～

農業水産振興課では、昨年度よりJAながみねや果樹試験場と協力して貯蔵みかんの優良系統として、浮皮しにくいなど地域で評価されている系統や品種を調査している。

今年度は、9つの系統や品種について調査しており、着果状況などの現地調査や12月の収穫時、貯蔵中の1月23日、2月20日に糖、酸などの7項目に関する品質調査を実施した。

今年度は産地全体として浮皮が多く見られた中、超晩生の系統や「植美」など浮皮の見られない系統があった。今年度初成りの園地が多かったため、各系統が持つ本来の特徴が表れていないことも多く、来年度以降も調査を継続して栽培適地や貯蔵適性などを検討していく。

また、2月5日および26日、生産者に各系統の食味評価を行ってもらうとともに意見交換を行った。

食味評価では、外観や甘み、酸味などの5段階評価とじょうのうの厚みに関する評価を勘案して、10点満点の総合評価を記入していただいた。

生産者の総合評価は概ね、品質調査の結果に比例する結果となったが、通常の貯蔵みかんとは違った特徴のあるものがめずらしいとして評価されることもあった。食味評価には様々な要因がからむため、今後、優良系統の食味の特徴を明確に示し、販売対象に応じて選択できるように情報提供したいと考えている。



下津農業士会での評価



調査系統に関する説明



JAながみね下津柑橘部会オレンジ会での評価

2. 和海地方総合農政推進協議会が県外研修会を実施

2月14日、和海地方総合農政推進協議会(会長:尾花正啓 事務局:農業水産振興課)が、援農の取組について知見を広めるため、京都府和東町と京都府庁において先進地研修を実施し、会員14名が参加した。

和東町は歴史ある宇治茶の一大産地で、別名‘茶源郷’とも呼ばれ、京都府景観資産第1号として「宇治茶の郷 和東の茶畑」が登録されており、お茶を軸としたまちづくりが盛んに実践されている地域である。

和東町では、和東町雇用促進協議会の木村事務局次長から、現在取り組んでいる茶を活用した新たな産業創出のプロジェクトについて説明を受けた。

続いて、合同会社ゆうあんビレッジ代表の山下氏から、ワヅカナジカン援農プロジェクトの取組について説明を受けた。

ワヅカナジカン援農プロジェクトは、和東町内の茶農家が人手が欲しい5～7月の3ヶ月間、援農者がシェアハウスで共同生活を送りながら、茶農家での作業(収穫、運搬、工場作業など)を行う、長期滞在型の援農プロジェクトである。

援農者の受入には宿泊施設が重要との考えから、援農者の住居について試行錯誤しており、今年は倉庫を改装して新たにシェアハウスとすることに取り組んでいる。援農者が町内で滞在して働くことで地域住民との絆が強くなり、和東町への移住にもつながっているという。

また、合同会社ゆうあんビレッジでは、2年前から奈良県下市町でカキの収穫時期の援農として「シモイチナジカン援農プロジェクト」、山口県のスイカでも同様の取り組みを支援するなど、他地域の横展開を図っている。

山下氏の取り組みに興味深く聞いた参加者は、援農プロジェクトのしくみなど、細部にわたり熱心に質問をしていた。

また、京都府庁では、京都府農林水産部農産課の担当者から、農業に興味のある方・力になりたい方を「援農隊員」として募集・登録し、人手を必要とする農業者とマッチングさせる京都援農隊マッチング支援制度について説明を受けた。

本協議会では、これら先進地研修を通して、会員間の連携を深めるとともに情報共有し、今後の活動に繋げていく。



和東町雇用促進協議会の
木村事務局次長



山下丈太氏による援農プロジェ
クトの説明

Ⅱ 那賀振興局

1. 重点プロジェクト【GAP 推進による安全安心農産物産地の確立】

～農業者団体等への GAP の周知活動～

農業水産振興課では、重点プロジェクトとして、GAP の実践啓発や指導員の育成、導入や認証への支援に取り組んでいる。その一環として、農業者団体等への GAP の理解を深めるための周知活動を実施しており、2月22日に那賀地方有機農業推進協議会研修会の参加者20名に対しGAP導入の目的について周知した。

今年度はこれまでに、那賀地方有機農業推進協議会、紀の川市環境保全型農業グループ、新規就農者（アグリビギナー研修受講者）、那賀地方農業士協議会女性部会、ともぶち地域活性化協議会へも同様の研修を実施している。

GAPについては、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックにおける食材の調達基準に認証の取得が要件化されるなど、国内の流通業界で関心が高まっており、全国的に取組が推進されている。管内においては、GAPへの取組は一部の生産者に限定され、認知度は低い状況にあるが、認知度を向上させ、導入しやすい環境を整えることで、取組拡大を図っている。

生産者からは導入のメリットについてよく質問があることから、当課ではGAPの考え方を取り入れることで、作業者の労務や安全管理によるリスク低減や、経営改善に繋がることなどを説明している。

今後も、関係機関と連携し、GAP周知活動をはじめ、導入推進に向けた取組を進めていく。



那賀地方有機農業推進協議会 研修会

2. 紀の川市4Hクラブ現地研修会 ～低コスト簡易ハウスの活用～

2月5日、紀の川市4Hクラブは会員及び地域の新規就農者の知識・技術向上のため、むねまつ農園(徳島県名西郡石井町)で視察研修を行った。

会員及び新規就農者、関係機関から17名が参加し、むねまつ農園代表の宗本一平氏から就農から現在までの取組について、説明を受けた。

宗本氏は平成23年に就農し、今年で就農7年目となる。

就農当時は単価が高く、価格が安定しているカリフラワーを主体に経営を考えていたが、露地栽培では播種や定植時期が8～10月の天候が荒れやすい時期になるため、栽培が難しかった。このことから、今回視察した低コスト簡易ハウスを導入することで、比較的気候が安定している11月以降の栽培も可能となり、経営が安定したとのこと。

現在は、コマツナなども含めて、約160aで低コスト簡易ハウスを利用している。

視察の参加者らは、冬期の簡易ハウス利用で栽培可能な品目などについて活発に情報交換を行っていた。

本研修を参考に、那賀管内にも導入されつつある簡易ハウスの定着に繋げたい。



収穫期を迎えたコマツナ



加工用ホウレンソウの収穫(葉のみ)

3. 果樹・野菜の技術研修会を開催

～紀の川市環境保全型農業グループ～

2月13日、紀の川市環境保全型農業グループ（会長：畑敏之）は「温州ミカンのせん定と施肥管理について」と題して、ロイヤルインダストリーズ（株）の技術部長である瀬片元治氏を招き、果樹の技術研修会を開催した。また、2月27日には、「春作のオススメ品目と品種」と題して、（株）サカタのタネ 関西支店から杉山 太一氏を招き、野菜の技術研修会を開催した。果樹の研修会では、関係者を含め17名、野菜の研修会では9名の出席があった。

果樹の研修会では、午前中は座学、午後からは現地でせん定講習について研修を実施した。座学では、カンキツの生理生態、特に植物ホルモンの作用とせん定や施肥の関係について、具体的な事例や図表を示しながらわかりやすく説明があり、午後からは、温州ミカンの現地ほ場で切り上げせん定のしくみについて実地研修を受けた。参加者らは瀬片氏に、せん定の強弱がその後の生育にどう影響するのかや、裏年のせん定の考え方など、熱心に質問していた。

野菜の研修会では、杉山氏から春作のオススメ品目として、トウモロコシ、トマト、エダマメ、インゲンなどの基本的な栽培方法と直売所の端境期を狙った作型や直売所向けの目新しい野菜について説明があった。参加者らは、夏秋栽培におけるトマトの品種特性や半結球ハクサイの密植栽培について熱心に質問していた。

同グループは環境保全型農業を推進していくため、今後も経営や栽培の参考となる研修会等を開催する予定であり、農業水産振興課も紀の川市環境保全型農業グループの活動を支援していく。



果樹研修会



野菜研修会

4. 那賀地方有機農業推進協議会の講演会が開催されました

2月22日、那賀地方有機農業推進協議会（会長：関弘和）は、有機農業の推進を目的に講演会を那賀振興局で開催し、管内外から20名が参加した。

日本オーガニック&ナチュラルフーズ協会（JONA）の認証マネージャーである杉野文哉氏を講師として招き、「有機認証制度ってなんだろう？これからはじめる有機 JAS」と題して、有機認証制度の基本について講演があった。

杉野氏からは、有機 JAS の認証基準や認証方法について、初めての人でもわかりやすいように説明がなされた。今回は初めて認証制度について学ぶ参加者もあり、有機農業や認証制度の理解が深められたようだった。

農業水産振興課からは、GAP の目的と意義について奥野普及指導員から説明し、参加者への周知を行った。

参加者からは、有機 JAS の個人認証から法人認証へ移行するメリットや GAP と有機 JAS 認証の考え方など多数の質問があった。

同協議会では有機農業を消費者や生産者に広く知ってもらうため、今後も研修会等を開催する予定であり、当課もこれらの活動を支援していく。



研修会

5. 那賀地方農業士連絡協議会県外研修

2月25日、那賀地方農業士協議会（会長：飯田勝）は、会員の技術研鑽を図るため、農業生産法人 有限会社 池田牧場（滋賀県東近江市）で視察研修を行い、会員、関係機関35名が参加した。

池田牧場では、専務取締役 池田喜久子氏から取組内容等の説明を受けた。

有限会社 池田牧場は、資本金1,000万円で平成10年7月に設立し、現在の事業内容は、生産（酪農、飼料栽培、）加工直売（アイスクリーム）、レストラン、宿泊体験施設等を実施している。

池田氏は昭和31年から酪農を営み、徐々に牛舎を増築するなど経営規模を拡大し、中山間地域での経営を確立してきた。しかし、昭和56年頃から牛乳の生産調整が始まり、毎日、200リットルほどを畑に捨てなければならなかったことがきっかけとなり、消費者に対し食の大切を直接伝えたいとの思いが、乳製品の加工事業へ取り組むきっかけとの説明があった。

「アイスクリーム」への加工に取り組み、試行錯誤の結果、低脂肪のイタリアンジェラートを手がけることにたどり着き、イタリアにも研修に出かけるなど完成まで大変苦労したとの話で、平成9年にジェラートショップを開店したところ、酪農家が行うジェラートショップは注目され、2年後には来客数が1,000人を超え、当時から今でも行列ができる程大人気との話であった。

平成15年に店舗移転を行い、ジェラートショップの隣接に農家レストラン「香想庵」も開店し、獣害捕獲された鹿や猪肉を使った料理や地元でとれる川魚や野菜を使った料理の提供も行い、緑豊かな山里で農家のおもてなしをあげることから、都会の人から大人気となり口コミで広がったようだ。

今後とも、様々なイベント等を計画し、中山間地域の活性化を目指し、都市住民との交流を進めていきたいと考えているとの話であった。



農家レストラン「香想庵」



「香想庵」での研修

Ⅲ 伊都振興局

1. 重点プロジェクト【省力化と新品種導入による柿産地の振興】 ～柿葉利用モデル園の剪定～

農業水産振興課では、省力的に生産可能な品目として取り組んでいる柿葉利用モデル園において、2月20日に剪定を実施した。本園地では7年間放棄された樹を対象として、樹の再生と柿葉利用の可能性について検討を行っている。本年度は放棄園でも大幅な切り返しを行うことで柿葉利用樹として再生できる可能性があること、無防除の場合はどうんこ病が多発するため柿葉生産に影響を与えることが明らかになった。

調査樹の剪定については、利用できる柿葉が多く着生する長い新梢を確保するため、新梢の基部約2芽を残して切り返しを行った。次年度は安定した柿葉生産を図るために防除法の検討を行い、柿葉出荷の経営モデル作成に取り組むたい。



柿葉調査樹の剪定



剪定後の柿葉調査樹

2. 校務員向け花栽培研修会を開催

農業水産振興課では、橋本市教育委員会から依頼を受け、学校の環境整備に取り組んでいる校務員を対象とした花栽培研修会を2月20日に市立西部小学校において開催した。研修会には市内の小学校校務員20名が参加し、花栽培の基礎や年間の栽培スケジュール等の説明を熱心に受講していた。

まず初めに、五十嵐技師が種子の発芽の条件や花の生育ステージなど植物生理について説明した後、培土の準備や種まき、育苗、定植後の管理等の基本の栽培方法を説明した。また、今後の花壇づくりに活かせるよう、苗選びのポイントや花を長く咲かせ続ける方法、種から作りやすい花壇苗9種類を紹介した。

参加者からは、病害虫対策や土づくり、花木の剪定に関する相談が多く、「発生した病害虫に合った農薬を考える機会になった」「花持ちをよくするため、花がらを摘むなど栽培管理に気をつけたい」、などの声があった。



研修会

IV 有田振興局

1. 和海・有田合同農業女子プロジェクトを開催！

2月7日、有田市みかん栽培農家、畑中伸二氏の倉庫および初島公民館において、和海・有田合同農業女子プロジェクトを開催した。

地域を超えた農業者の交流を目的とし、初の試みとして和海地方女性農業者交流会および有田農業女子プロジェクト研修会を合同で開催したところ、両地方から農業女子19名及び女性農業士7名の参加があった。

第1部では、倉庫内を整理され、作業省力化の様々な工夫をされている畑中氏から「アイデア満載！らくらく倉庫への取組」と題し、実際に見学をしながら説明を受けた。コンテナ用キャスター台や、“てぼ”（収穫カゴ）収納スタンドなど自作品を使い、整理整頓された倉庫に参加者らは、とても感心し、写真を撮るなど熱心に記録していた。「目からうろこのアイデアがたくさんあり、家でも実践したい」との声も聞かれた。

その後、昼食をとりながら、参加者同士で交流をし、第2部では、Cafe colline（海南市下津）から村田氏を講師に迎え、みかんの新たな加工として、ドライみかんを使用したハーバリウム作り体験を行った。その他、ドライフラワーも含め、参加者が自由に材料を選択し、配置を考慮しながら瓶の中に詰めていき、専用オイルを入れた。参加者からは「初めてだったが、とても楽しかった」などの感想が聞かれた。

農業水産振興課では、地域をより活性化するため、今後も女性農業者の活動支援に力を入れていくとともに、定期的に地方を超えた交流も実施していきたい。



畑中氏による研修



ハーバリウム体験



完成品



当日の参加者（農業女子、女性農業士）

2. 温州みかんの剪定研修会を開催！

就農して間もない農業者を対象に実施している「アグリビギナー等技術経営研修」の第6回を2月15日に実施し、新規就農者や4Hクラブ員13名の参加があった。

元指導農業士の総田至氏の園地（有田市初島町）にて、上山普及指導員が温州みかんの剪定の目的や方法を説明した後、着花量の見込みが多い樹と少ない樹について、園主を交えて剪定の実演をした。

本年は、着花量の少ない樹が大部分と思われるため、参加者から、果梗枝や被さり枝の除去といった生理落果を少なくするための留意点のほか、主枝の本数が多い場合の整枝方法など、質問が多く出るとともに、参加者同士でも意見交換していた。

3月に予定している「苗木の植え付けに関する研修」で今年度は終了する。



剪定について資料説明



意見交換しながら剪定の実演

3. 平成30年度有田地方農業者団体連絡協議会研修会が開催されました

2月20日、有田川町金屋文化保健センターにおいて平成30年度有田地方農業者団体連絡協議会（会長：嶋田勝彦）主催の研修会が開催され、各市町から農業士、生活研究グループ員、4Hクラブ員及び市町担当などの関係者併せて約80名が出席した。

今回の研修会は、「鳥獣害対策技術の現状について」をテーマに、和歌山県林業試験場主任研究員の法眼利幸氏から「和歌山県の農林地における獣害対策-果樹試験場と林業試験場の共同研究」、兵庫県立大学教授で兵庫県森林動物研究センター主任研究員の山端直人氏から「これからの地域社会のための獣害対策」と題した講演が行われた。

法眼氏より、果樹試験場や林業試験場でおこなった、イノシシやシカの捕獲試験の概要と効率的な捕獲方法や、獣害対策の基本的な考え方について詳しい解説があった。

山端氏は、獣害被害集落で住民とともに対策を進めた結果、被害を減少させたとの実例を数多く示すとともにイノシシ、シカ、サルそれぞれの獣種で、効果のあった取組を動画を交え、ユーモアたっぷりの解説を行った。

参加者は熱心に聴講し、「箱わなでイノシシは捕れるが、シカが捕れない。どうしたらよいか」、「ICTを活用した大型囲いワナはどれくらいの費用がかかるのか」など活発な質疑が行われた。

その後、農業水産振興課の橋本普及指導員が、平成30年9月～10月にかけて行った「農業労働力に関するアンケート調査」についてとりまとめた概要を報告した。



林業試験場法眼主任研究員による
獣害対策の説明



兵庫県森林動物研究センター
山端主任研究員による
獣害対策の成功事例の解説

4. 未来の農業者を育成！

有田川町4Hクラブの亀井勇希氏と小澤佑哉氏は、今年度から母校である鳥屋城小学校の3年生を対象に農業体験授業を行っており、3回目の授業として2月21日にみかんの剪定体験と農具の説明を行った。

亀井氏が剪定を行う理由を説明した後、剪定体験として小学生が5～6名の班に分かれ、収穫バサミで枯れ枝を切った。

その後倉庫に移動し、亀井氏による選果機やチップパーなどの農機具の説明と、ハッサク・せとかの試食を行った。



剪定について説明



選果機の実演



柑橘の試食

小学生の頃の体験が将来の農業後継者となるきっかけ作りに重要と考えている両氏。授業の最後に生徒に感想を聞くと「美味しかった」、「楽しかった」などの反応があった。

今後は小学生の感想文を参考に来年度からの授業内容を検討し、さらに心に残る授業にしたいと意気込んでいる。



意見交換

5. 有田地方農業士協議会女性部会研修会を開催！

2月25日、有田地方農業士協議会女性部会（部会長：西川一美）が、奥みなべ梅林、受領会館（みなべ町東本庄）で先進地研修を行い、4名が参加した。

はじめに、指導農業士の二葉美智子氏から、地域資源を生かした梅農家らの取組について説明を受けた。参加者らは町内の幅広い年齢層の方が関わり、若い世代のセンスやベテランの技術が生かされた取組に感心していた。

その後、梅染愛好会メンバーから梅の樹皮を煎じた汁で染める「梅染」について説明があり、各自ストールやハンカチに好みの模様をつける体験を行った。

体験後は、梅林開園中に提供される、里山の農家ランチ「奥みなべ梅御膳」をいただいた。参加者らは、梅干しには調味料として様々な活用方法があることを知り、「家に帰っても実践したい」などの声が聞かれた。

農業水産振興課では、他地域や若手の女性農業者との交流を深められるよう、引き続き、女性部会の活動支援を行っていく。



梅染体験



講師および参加者

6. 農業労働力確保に関する先進地研修を実施

J Aありだ、各市町、県農、農業共済、振興局で組織するブランドありだ果樹産地協議会実行委員会（実行委員長:振興局農業水産振興課長 川尾尚史）では、先進地域における農業労働力確保の取組や宿泊施設の整備状況等を把握するため、2月26日～27日に愛媛県今治市と八幡浜市で研修を実施し、9名が参加した。

今治市では、J Aおちいまばり営農指導課専門指導員の岡本勇人氏より、果樹の農作業受託事業に取り組む『心耕隊』の活動について説明を受けた。

『心耕隊』は2013年に組織され、果樹の収穫や摘果、剪定、マルチ被覆、ハウスの設置などの農作業をJ A営農指導員と綿密に連携しながら受託しており、農家の労働力支援として喜ばれている。

八幡浜市では、J Aにしよう農家支援課長の杉本充氏より、農繁期の農業労働力の確保や担い手の確保・育成・定着等に取り組む『西宇和みかん支援隊』の活動について説明を受け、その後、宿泊施設「マンダリン」を見学した。

『西宇和みかん支援隊』は2014年に設立され、みかんアルバイト事業や労働力確保に向けた産地間連携、農家ステイ事業など、地域の農業労働力確保に向けた支援を行っている。

また、宿泊施設「マンダリン」は、廃校となった小学校を八幡浜市が改修し、みかんアルバイトの宿舎として活用しているもので、西宇和地域のアルバイト増加要因の一つとなっている。

今回の研修では、各取組の詳細な現状や実施までの経緯、今後の課題など、担当者と質疑応答を行うなかで、より深く理解することが出来た。

今後、農業水産振興課では、有田地域の農業労働力確保対策のため、今回の研修で得た情報を基に当委員会で検討を重ね、各機関の役割分担や地域の体制づくりにつなげていきたいと考えている。



J Aより説明を受ける（JA おちいまばり）



宿泊施設「マンダリン」（JA にしよう）

V 日高振興局

1. 重点プロジェクト

【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】

～「露茜」の導入推進・生産安定技術の実証と「ウメ斑入果病(仮称)」のまん延防止～

農業水産振興課では、新病害虫の侵入警戒とまん延防止と、梅干し生産に特化した農業経営を改善するため、青梅の省力化栽培技術や「露茜」「翠香」といった特徴ある品種の導入推進を普及指導計画の重点プロジェクトとして取り組んでいる。

「ウメ斑入果病(仮称)」の感染状況を把握するため、果樹試験場各場所の協力のもと、県内に植栽されている「露茜」苗木全樹のウイロイド検定を実施した結果、陽性樹の割合は約0.5%と県内における感染は限定的であった。日高管内における陽性樹の割合は約0.4%であり、陽性樹生産者へ個別に検定結果を通知するとともに、2月8日、JA紀州清川出荷会露茜部会を対象にウイロイド研修会をうめ研究所とともに開催し、18名が参加した。沼口副主査研究員からは、斑入果病の概要、ウイロイドの基礎知識、DNA検定の方法やせん定器具の簡易な消毒方法について説明し、まん延防止のための啓発に努めた。部会員からは、「陽性樹は伐採する方針を部会として示してはどうか」、「高接ぎ樹の検定も必要ではないか」といった意見があり、当課としては、今後とも地域とともに病害虫対策を徹底しながら、「露茜」の推進に取り組む。



清川出荷会露茜部会のウイロイド研修会

2. 日高川町4Hクラブ員が日高川町農業祭にて焼き芋販売

日高川町4Hクラブ(会長：西山泰央)は、2月10日、日高川町農村環境改善センター・川辺西小学校体育館で行われた「第13回日高川町農業祭」で活動のPRのため、焼き芋販売を行った。本クラブでは、数年前からクラブ活動として高糖系サツマイモの栽培試験を実施しており、クラブ員のは場で収穫し、貯蔵していたサツマイモ20kgを使用した焼き芋を販売した。

本年は7月の高温少雨と9月の台風などで、苗の生育不良が多かったほか、獣害により

芋の収穫量は少なかったが、焼き芋に適した大きめの芋が収穫できた。

貯蔵により適度に水分が抜け、甘みの増した芋は焼き芋に最適で、クラブ員らが特製のコンロで焼き、販売した。お客さんからは、「甘い！美味しい」などの感想があり、一人で複数個を購入する方もいるなど盛況で、農業祭終了までに完売した。クラブ員らも手応えを感じたようで、次年度は増収と高品質化を求め、植栽場所と土作りの見直しを図る予定である。農業水産振興課では引き続き活動を支援していく。



サツマイモの説明と焼き芋の販売を行うクラブ員



販売した高糖系サツマイモの焼き芋

3. 日高川町農業祭にて振興局の農業関連活動を PR

2月10日、日高川町農村環境改善センター・川辺西小学校体育館で行われた「第13回日高川町農業祭」に、農業水産振興課関連業務の活動をPRするため、ブースでの展示やコーナー出展を行った。本農業祭は、日高地域内でも最大級で、毎年町内外問わず多数の方の参加があり、会場各所では各団体の出展や体験・展示コーナーの設置のほか、農産物品評会も併設している。

展示ブースでは、近年町内でも野生鳥獣による農林産物への被害が後を絶たないため、農業環境・鳥獣害対策室の協力のもと当課職員らが、鳥獣による農作物・林業被害を防ぎ、新たな狩猟者の確保に努めようと、狩猟の疑似体験ができるシューティングシミュレーターを設置し、多くの参加者があった。試食コーナーでは、シカ肉料理の普及に取り組んでいるシカレディースが出勤し、シカ肉の燻製を来場者約100名に提供した。

また、各種相談コーナーでは、JA紀州と市町、農業委員会、振興局等で組織する日高地方農地活用協議会が「農地貸借相談会」を開催したほか、本年度から開始した農業経営サポート事業のPRや「農業経営相談会」を開催し、個別相談に対応した。



農地貸借相談会



シカレディースがシカ肉の燻製を提供

4. 日高地方「花き品評会」、「花き展示会」を開催

日高地方花き連合会（会長：池田晃）は、2月15日、JA紀州がいなポートで「花き品評会」、翌16日にオークワロマンシティ御坊店で「花き展示会」を開催した。

今回で第3回となり、「花き品評会」には、56点の切り花や切り枝が出展され、中尾貴宏氏（印南町）のスターチス「シースルーホワイト」と浜田正氏（御坊市）のシュッコンカスミソウ「ホワイトベール」が最高の金賞、山本修功氏（御坊市）のバラ「アバランチェ」が特別賞を受賞したほか、銀賞5点、銅賞7点が選ばれた。出品数が前回を下まわったものの、暖冬基調の影響で出品物の品質は総じて良好でレベルの高い品評会となった。

「花き展示会」には、品評会の入賞品を中心に日高地方の代表的な花き約30点を展示して買い物客らにひと足早い春の雰囲気を提供するとともに、花き連合会の活動紹介、「母の日参り」や「3Love Stories」の花き消費拡大の啓発を行った。また、花束のプレゼントや会員による花活けの実演を行ない、日高地方が全国有数の花の産地であることをPRした。



品評会で金賞を受賞した中尾氏（左）と
浜田氏（右）



日高産の花を展示してPR

5. 平成30年度「農トレ！ひだか」 ～第3回セミナー開催～

2月21日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：柏木研哉）と日高振興局農業水産振興課の共催により、管内の若手の農業者や新規就農者等を対象とした研修会「農トレ！ひだか」の第3回セミナーを開催した。日高地方4Hクラブ員他13名が参加した。

今回は、暖地園芸センター研修館にて、農薬の種類やその作用の仕組みと農薬散布ノズルの適正利用に関する知識と技術取得を目的とした研修を行った。

まず、クミアイ化学工業株式会社大阪支店の鳥居侑史氏から、農薬の作用機構の仕組みと使い方について、講演いただいた。続いて、ヤマホ工業株式会社の玉木寛之主任から、作物や目的に応じた適切な農薬散布方法とノズルの選び方について、講演いただいた。

参加者は熱心に受講し、「農薬への液肥混用の是非は？」、「類似成分の農薬をその場で横断的に識別するには？」、「果樹用の静電ノズルの開発見込みは？」など、様々な質問を行った。

講演後は、同センター内駐車場で、農薬ノズルの紹介と散布実演講習会を実施した。ヤマホ工業の玉木氏が従来品から最新のノズルまでサンプルを展示して説明紹介し、ノズルの違いによるドリフト状況や飛散低減ノズル、超少量散布ノズルの実演を行った。「価格ほどの程度か」、「飛散状況が全然違う」など、参加者は熱心な情報交換を行っていた。

日常管理でよく使用する一方で、ノズルは「家にあるもの」で使用する、深く考えたことがないという意見が多い中、今回の研修は大変興味をもってもらえた。



農薬の知識や化学的な作用機構を学ぶ参加者



ノズル別の噴出形態やドリフト状況の実演

6. 日高地方生活研究グループ連協が現地研修会を実施

日高地方生活研究グループ連絡協議会（会長：後藤明子）は、2月26日に県内の食品加工技術等を学び、今後の活動に繋げるとともに会員の親睦を図ることを目的に、ハグルマ株式会社と築野食品工業株式会社で現地研修会を実施し、会員24名が参加した。

最初に、ハグルマ株式会社では、研究開発部品質管理課の名出武弘課長から会社の概要と食品に対する安全と安心へのこだわり等について説明を聞いた後、会員らは2班に分かれ、衛生管理の行き届いた最新設備の工場を見学した。その後、自社製品であるケチャップやソース、ドレッシングなどを会員らは興味津々で味見をしていた。

夏場の期間限定で地場産の加工用トマトを原料に使用していることや私たちの身近な調味料が製造されていることを学んだ。

会員からは、「加工用トマトはどこから輸入しているのか」、「加工用トマトと生食用トマトの違いはあるのか」、「加工用トマトを栽培すれば買い取ってもらえるのか」などの質問があった。

次に、築野食品工業株式会社では第二営業本部食用油脂2部の花岡泰資氏から会社の概要及び米油の特性について説明があった。米ヌカから米油を製造していることや米油は酸化しにくく、高温に強くカラッと揚がるので揚げ物に最適で、冷めても美味しさが長持ちすることや調理の仕方等について学んだ。会員からは、「米油が米ヌカから作られているとは知らなかった」、「一度調理に使った米油は、捨てた方が良いのか」などの感想や質問があり、関心の高さが伺えた。



ハグルマ株式会社の製品を味見する会員



米油の特性について説明を聞く会員

VI 西牟婁振興局

1. 西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催

2月1日、上富田町農村環境改善センターで西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会(会長：森川敏子)が、地域特産物の料理加工法をより浸透させることを目的にリーダー研修会を開催し、16名が出席した。

海南市の株式会社野田商店の専務取締役の野田智也氏が講師を務め、乾物についての講話と調理実習を行った。

野田氏は、「かんぶつマエストロ」の資格を持ち、各地で乾物に関する食育の出張授業や講演会を行っている。講話では「乾物は、現在は敬遠されがちな食材だが、伝統食、健康食、保存食であり、子供たちの味覚の形成の一助となる安心・安全な食材である」、「万が一の災害時にも、日常と変わらない風味で、安心と安らぎを与えてくれる」など、乾物の魅力について学んだ。

調理実習では、「切干大根ときのこのマリネ」、「こうやキーマ風カレー」、「寒天ごはん」、「あべかわ麩」を調理した。調理に用いた切干大根と乾燥しいたけと米は、会員から提供されたものを用いた。

煮物などの昔ながらのメニューとは異なるメニューに乾物を用いたことで、参加者からは「カレーに高野豆腐が違和感なく合う」、「寒天を入れて炊いたご飯がツヤツヤ!」、「あべかわ餅は、餅を使うよりも麩の方が高齢者や幼児には食べやすい!」、「家庭で作りやすいメニューだから取り入れやすい」などの感想があった。

昔から親しまれる食材についても、別の視点で調理に取り入れることで、新たな魅力を発見できることを学ぶことができた。



かんぶつマエストロ・野田氏の講話



斬新で作りやすい乾物メニューの数々

2. 地元のジビエを使った料理講習会を実施

ジビエの振興と地産地消の推進を目的に、田辺市上芳養出身のフランス料理シェフ更井亮介氏が講師となり、西牟婁地方学校栄養士研究会（会長：松本知美）を対象に学校給食への活用に向けた料理講習会を実施した。

また、田辺市立上芳養小学校の児童を対象に地元でとれたジビエに親しみを持ち、ジビエ料理のおいしさを知ってもらうため、調理実習を行った。

（1）西牟婁地方学校栄養士研究会の研修会

2月5日、大塔健康プラザにて、西牟婁地方学校栄養士研究会を対象に「ジビエ料理の理解を深める」をテーマに料理講習会を実施し、会員15名が参加した。

更井シェフがジビエの云われやジビエをおいしく調理するためのコツ等を説明した。その後、ジビエ料理の実演として、鹿肉の油淋鶏、鹿肉と猪肉の合挽き肉を使ったジビエミートボールの調理、試食を実施した。会長からは「これまではジビエソーセージを使っている学校が多かった中、ジビエのレシピの幅が広がった。来年度以降はミンチかモモ肉を使ったメニューを提供する学校が増え、ジビエの利用が広がっていけば」との意見が出た。



更井シェフのジビエ料理実演



ジビエ料理の試食と質疑

（2）上芳養小学校の調理実習

2月18日、5～6限目に上芳養小学校の6年生（15名）を対象にジビエの調理実習を行った。

更井シェフからジビエとは何かやイノシシやシカを捕獲する理由、昨年2月に上芳養地区に竣工したジビエの解体処理施設「ひなたの杜」での活動等について説明した。その後、イノシシ肉の焼きそばの調理実習を行い、児童と保護者も含め、焼きそばとイノシシ肉のそばろ丼を試食した。児童からは「牛肉とは違う味や臭いがするかと思ったけど、おいしくてびっくりした」、「また作ってみたい、食べてみたいと思った」との感想があった。

農業水産振興課では来年度も引き続き、ジビエの振興を図るとともに地産地消を推進するため、西牟婁地方学校栄養士研究会と連携し、田辺・西牟婁郡内の小学生を対象に調理実習を実施していく予定である。



児童を指導する更井シェフ



手を合わせていただきます！

3. 一番茶の茶摘みに向けて、いざ春整枝！

2月14日、白浜町市鹿野滝地区に設置した茶の樹勢回復を目的に設置した中切り実証園にて、園主である川添緑茶研究会（会長：上村誠）の会員1名と市鹿野地域で活動している地域おこし協力隊の福永氏と農業水産振興課の村畑普及指導員、北出技師の4名で春整枝を行った。

春整枝は、生長した夏秋梢を残した状態で越冬させて、春に整枝することである。一番茶の収穫時期は若干遅くなるが、勢いの良い新芽を収穫できる。

夏秋梢の生育状況に合わせて整枝位置を決めた後、2人持ちの刈ならし機によって整枝した。春整枝後は、一番茶の茶摘みに向けて施肥と防除を行い、質の高い新芽の生育を促す。

今後も川添茶の振興を図るため、本実証園を含めた地域の茶樹の生育状況を確認しながら、適期作業の徹底を研究会会員に呼びかけていく。



整枝作業

4. 川添緑茶研究会が宇治茶を学ぶ

2月16日、川添緑茶研究会（会長：上村誠）は茶業経営の知識と技術向上、お茶の活用方法、生産者意識の向上、生産者間の連帯感の醸成を図るため、株式会社お茶の木野園（京都府南山城村）、畑茶園（京都府和束町）、久五郎茶園（京都府宇治田原町）、永谷宗円生家（宇治田原町）、宗円交遊庵やんたん（宇治田原町）を訪問。会員ら11名が出席した。

株式会社お茶の木野園では、南山城村役場橋本係長から同村における茶の概要（栽培面積300ha、府内の荒茶生産量第2位など）について説明を受けた。園主の木野氏は全国茶品評会農林水産大臣賞、世界緑茶コンテスト最高金賞など多くの表彰や黄綬褒章を受けるなど、技術や事績を有し、自園自製で木野園ブランドを確立している。

畑茶園は経営面積5ha、一番茶は煎茶が5割を占め、かぶせ茶、玉露を生産、二番茶は3年前から抹茶の原料である碾茶を外部委託生産し荒茶をJAへ出荷している。また、昭和40年、畑氏の父をはじめとする4Hクラブ員らが町内で初めての共同製茶工場を整備、現在の製茶の主流となっている。

久五郎茶園では、標高差、品種11品種、被覆方式（1段、2段）を組み合わせ、収穫適期を約一ヶ月に拡大させ、栽培面積は6haに拡大。煎茶、かぶせ茶、玉露、碾茶を生産しリスク分散を図りつつ、市場の価格変動にも対応している。また、直接販売することにより「久五郎茶」のブランドを確立している。

永谷宗円生家では、青製煎茶製法を編みだし、全国に煎茶を普及させた永谷宗円の偉業の説明を受けた。

宗円交遊庵やんたんは、湯屋谷地区の共同製茶工場をリノベーションしたお茶のふるさと交流施設で、茶の歴史展示と交流スペースや茶商品販売コーナーなどが整備されている。

参加した研究会員からは「基本管理がきちりできている。」「栽培指針にある有機主体の施肥管理をしないといけない」などの感想があり、トップブランドである宇治茶の歴史及び生産基盤、高い生産者意識、茶園のある集落環境について学び、自園との違いを感じ、栽培技術や意識の向上につながる研修会となった。

今後も農業水産振興課では当会の活動を支援していくとともに、茶園の若返りを図るための中刈り実証園設置運営などを継続していく。



(株)お茶の木野園の手摘み茶園



宗円交遊庵やんたん

5. 西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会が先進地視察研修を開催！

西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会（会長：森夏輝、会員11名）は、2月21日～22日、果樹類の苗木生産の現状や青果物の近況、他地域の6次産業化の取組を学ぶことを目的に、先進地視察研修を実施し、会員6名が参加した。

まず、紀の川市小坂調苗園にて、小坂憲史郎社長から経営や取り扱いのある品種等について話を聞き、カンキツや梅、カキの苗づくりの現場を見学した。現場では、苗木の管理の仕方や接ぎ木をする際のポイント、台木にする母樹の選び方等の話があり、クラブ員は興味深く話を聞いていた。

次に、大阪市中央卸売市場にて青果物のせりの現場を見学し、大阪中央青果株式会社の田村安延果実部長から市場の説明を聞き、青果物の近況について意見交換を行った。梅の価格は安定傾向にあるが、リスク分散のため多品目を作ることも視野に入れてほしいとの話があった。

大阪府柏原市のカタシモワインフード株式会社では、高井利洋代表取締役からブドウ園の案内と、各園地で行っている様々な取組について説明を受けた。事業成功のポイントは、「ワイン造りだけでなく、ボランティアを募り、レストランとコラボして見晴らしの良いブドウ園でランチ会を開いたり、ワイン蔵を見てもらうことで観光につなげたりと他の人と連携することで色々なことができる。地域におけるブドウと歴史とのつながりを示したり、エンターテインメント性を考えるなど、自分なりのビジネスを作ることが大事。産地を残し、子供に継ぎたいと思わせるためにはカッコいい、儲かる農業をすることが大切」とのことであった。

参加したクラブ員からは、「苗の接ぎ方のポイント、細かいコツが聞けてよかった、自分で接ぐ際に参考にしたい」、ワイナリーでの話から、「自分が何をしないといけないか、考える機会になった」などの感想があり、会員各自の研鑽を図るとともに、会員相互の交流を深めることができた。



接ぎ木のポイントを学ぶ



せりに出る青果の説明を聞く

6. 田辺生活研究グループ連絡協議会が「ジビエ料理」をPR

2月24日、田辺スポーツパークで開催された第5回南紀田辺UMEロードマラソンにおいて、田辺生活研究グループ連絡協議会がジビエ利用促進のためにシカ肉シチューを約300食提供した。

シカなどによる鳥獣被害が深刻となる中、一方でシカ肉は、低カロリー・高タンパク質・低脂肪・高铁分な上、脂肪燃焼効果のあるL-カルニチンも豊富で、美容・健康にとって良い機能をもたらすことで注目されており、味もあっさりとしてクセが少なく、どんな料理にも合う。

配布したシチューは、田辺鳥獣害対策協議会から提供された紀州ジビエ生産販売企業組合の鹿肉に、野菜をたっぷり入れてトマトベースのスープでじっくりと煮込んだものである。ランナーや応援に駆けつけた人々から「臭みもなくってあっさりしていて美味しい」、「去年も食べて、今年も食べれるのを楽しみにしていた」など大変好評であった。

当グループは、これまで田辺農林水産業まつりでシカ肉のたつた揚げを提供する等、地元イベントを中心にジビエ料理のPRを行ってきた。

今後も農業水産振興課は、ジビエ料理のPRをする当グループの活動を支援していく。



シカ肉シチューを求めて大行列！



めっちゃおいしー！

7. 第2回女性起業支援研修会「作り手の想いを届ける～くくたちの場合～」

農業水産振興課では、2月26日、高垣工務店シリコンbarにて、県内農産物を使った加工品の販売促進に関する研修会を開催し、起業や加工品の販売に関心のある女性17名が参加した。

講師は和歌山市出身で、和歌山市にてセレクトショップくくたち shop+café を営む正田明日香氏で、「作り手の想いを届ける～くくたちの場合～」をテーマに講演した。

正田氏はメーカーを退職後、米農家で働いた際に農家は“作る”のはプロでも“どう売るか”には苦勞していると感じ、2015年末にUターンし、和歌山の農業を応援する店を開店した。店では県内の農産物を使った加工品を販売。仕入れは車で直接出向き、農家と頻繁に会うことで商品の背景や農家の思いなどをPOPにつづり、消費者に伝えている。

正田氏から店のコンセプトや商品選びの方法について説明を受けた後、商品情報を農家にどのようにヒアリングし、消費者にどう伝えるかについて、デモンストレーションが行われた。「生産者の苦勞は消費者に伝わりにくいことも多いため、消費者目線で実感できる内容、食べ方としてスタンダードな方法に加え、少し意外な組み合わせを聞き出すようにしている」と商品の良さを伝える工夫を話した。

また、正田氏は、「消費者が自分用の商品を選ぶ場合は商品そのもののこだわりを伝えること、ギフト用では受け取った相手が食べ方、使い方をわかりやすい商品をおすすめする」、「商品づくりの際には、買ってほしい消費者のイメージや使ってほしいシチュエーションを考え、個性もちりばめることで販売時にプレゼンしやすくなる」など、商品選びや商品づくりで大切なポイントについて話した。

その他、「商品は作るまでが一段階、販売までが二段階、どのように食べ方を提案するか、想いを伝えるかで商品の価値が高まる。良いものを作っているのに想いが届かないのはもったいないため、伝える努力をすることが大切」とし、自身の店では、緑肥用の麦の茎を使った麦ストローを使えるようにしていることから、「農作物は食べる目的だけでなく、使い方や見方次第で様々な可能性がある」と商品化のプロセスについて必要な点について話した。

参加者からは、「多くの加工品があるなかで、取り扱う商品を決める基準は？」等の質問があり、「詳しい説明を聞いて、商品を買いたくなった」という人もあり、和やかな雰囲気の中で正田氏と参加者間でも交流がなされた。

なお、次年度も女性起業者を対象とする研修会を実施する予定である。



正田氏の講演



商品の紹介

8. 田辺生活研究グループ連絡協議会が加工講座を開催

2月27日、田辺市民総合センターにて田辺生活研究グループ連絡協議会(会長：高垣せり)が魚介類を使った料理の加工講座を開催し、会員19名が参加した。メニューは、カキごはん、アジのピザ、アジのアラを出汁にした味噌汁で、新庄漁協女性部と和歌山南漁協女性部の会員が講師を担当した。

カキごはんについては、講師の新庄漁協女性部の会員から、カキの身を塩水と水道水で洗う際のポイントや、殻から身を取り出す方法について説明と実演があった。会員らは、漁協会員ならではのカキごはんの作り方について、普段自分たちが作っている方法とは異なる点を質問しながら真剣に聞いていた。

そして、魚も肉のようにさまざまな料理に応用できるので、気軽に使ってほしいとの呼びかけで、和歌山南漁協女性部の会員を講師に、アジのピザを作った。

3枚に下ろしたアジの身を8等分にして塩コショウで炒めてピザの具としたが、違和感のないあっさりとした味わいのピザとなった。アジのアラは味噌汁にし、アジを余すことなく活かしたメニューであった。

出席した会員からは、「カキの旨みが出ていてごはんが美味しい」、「具をみじん切りにする方法はうちとは違うので今度やってみよう」、「魚をピザに使うなんて思いつかなかった」、「ピザに魚が合う！」等、漁協所属の会員がいる当グループならではのレシピの共有ができ、今後の郷土料理の振興や食育活動に繋げていくきっかけとなった。

田辺生活研究グループ連絡協議会では、今後も地域の生産物を使った講習会を会員の意見を聞きながら開催していきたいと希望しており、当課としても支援していきたい。



漁協ならではのカキごはんの作り方に
興味津々！



左：カキごはん、右：アジのピザ
上：アジのアラを出汁にした味噌汁

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 古座川町平井でゆずせん定講習会を開催

2月6日、(農)古座川ゆず平井の里(代表理事:羽山勤)は、旧平井分校(小学校)及び組合員のゆず園でせん定講習会を開催した。会員と関係者16名が参加した。

当日の午前中はあいにくの雨で、急きょ室内でのゆずせん定講義となった。はじめに、農業水産振興課浅井普及指導員から更新した防除暦の説明があり、続いて果樹試験場中地克之主任研究員からせん定方法の説明があった。質疑では「シカに食べられた樹の管理方法」や「苗木を斜めに植えつける栽培方法」等せん定以外の質問も多くされた。

午後からは、中地研究員から現地でせん定方法について実演を交えて説明があった。前半は慣行園、後半は耕作放棄園になって2～3年の園でせん定の実演を行った。参加者らは、それぞれの園地に適したせん定方法の他、栽培方法や病虫害防除方法についての相談も交えながら、せん定していた。

当課では今後もゆずの安定生産と高品質化の取り組みを推進していく。



ゆずせん定等講義 (旧平井分校)



ゆずせん定講習会 (古座川町平井)

2. 新宮市熊野川町生活研究友の会が「熊野川なれずし交流会」を開催

2月9日、新宮市熊野川町生活研究友の会（会長：竹田愛子）は、熊野川総合開発センターで「熊野川なれずし交流会」を開催した。平成元年から毎年開催されており、今回で30回目の開催となった。和歌山県内の各地域や、三重県などから64人の参加があった。

開会にあたり、同会会長の竹田氏より「以前はこの交流会でも、なれずしの出品数は25程あったが、最近サンマの漁獲が減ってきて出品が少なくなっている。今年は13品と少ない出品となったが、一生懸命作ったので楽しんで食べてください。」とあいさつがあった。

参加者らはさっそく6テーブルに分かれ、サンマ、アユ、サバのなれずしの食べ比べを楽しんだ。相互で感想を語り合いながら一品ずつ食べ比べ、各自感想をアンケート用紙に記入した。また、テーブルには熊野川地域伝統の篠尾こんにゃくや、漬物、茶がゆも振る舞われ、とてもおいしいとの声があちこちであがった。全ての品を食べ比べた後、各テーブルで最もおいしい品を決定、テーブル代表者が発表し出品者に賛辞をおくった。

農業水産振興課では地域の活性化や伝統食の継承に取り組む同会の活動を支援していく。



会長挨拶



食べ比べをする参加者

VIII 農林大学校

1. 1年生が金剛山登山を実施

1月24日、1年生19人が体力及びチームワークづくりを目的に金剛山登山を実施した。途中、足が痛くなり少し遅れる学生もいたが休憩しながら約2時間かけて山頂に到着した。登山が初めての学生も多い中、全員登頂でき達成感が味わえ、また、学生相互の親睦が図られ有意義な行事となった。



登山途中



山頂で記念写真

2. 平成30年度卒業論文発表会を開催

2月19日、農学部2年生23人がそれぞれ在校期間に取り組んだ研究成果を関係者の前で発表した。

発表内容は、園芸学科15人については果樹、野菜、花きの新品種の生育、品質特性の検討や省力栽培技術等で、アグリビジネス学科8人は消費者ニーズの把握や出荷農家への提案などを目的に実施した大型直売所でのアンケート調査結果であった。

それぞれ、自分が研究した内容の取りまとめ方、図表や文章力、プレゼンテーション力が身につくことからの人生に役立つと思われる。



研究成果の発表



農業試験場増田副場長の講評

IX 農林大学校 就農支援センター

1. 平成 30 年度技術修得研修(第 2 班)が修了

2月8日、園芸技術研修館において、技術修得研修（第2班）の営農設計発表会及び修了式を開催した。

営農設計発表会では、昨年9月から2月までの計25日間、講義や実習を通じて学んだことを踏まえ、自らの3年後、5年後を見据えた営農設計を発表し、意見交換を行った。研修生それぞれが農業に夢を描き目標に向けて頑張っていこうという思いが伝わってきた。修了式では、8名に修了証書が手渡された。修了生が目指す農業経営の実現に邁進されることを祈念する。



営農設計発表



修了式

2. 社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）修了式を開催

2月18日、園芸技術研修館において、社会人課程修了式を開催した。

昨年5月から9ヶ月間にわたり研修をおこなった9名が、田辺産業技術専門学院の峠学院長から一名ずつ修了証書を授与された。

また、修了式の後、研修修了生がこれまで学んできた知識と経験を活かして、5年先を見据えて作成した営農設計を発表し、意見交換を行った。

彼らは今後、自分が思い描く営農プランに向けて、また、地域農業の担い手としての第一歩を踏み出した。



修了証書の授与



営農設計の発表

3. U I ターン就農相談フェアを開催

2月24日、和歌山ビッグ愛においてU I ターン就農相談フェアを開催した。相談会には県内への就農を考えている13組17名（県内8組、県外5組）が来場した。相談内容には、「技術を習得するための研修を受講したい」、「本格的に農業をしたい」等があり、相談者に対し就農に向けてのアドバイスを行った。今回は農業法人等への就職相談、資金面の相談、林業就業相談、移住相談などの相談ブースだけではなく、有田市の農業や取り組みについて聞くことができる有田市有田みかん課もブースを出展した。

また、同時に新規就農セミナーを開催した。このセミナーでは、就農支援センターや農林大学校で研修を受講し就農した2名の方が、就農した際の苦労話や就農する際のアドバイス、現在の状況などについて発表を行い、質疑応答が行われた。参加者からは「経験者から直接、就農した際の話を知ることができてよかった」という感想が多く出された。



相談会



新規就農セミナー

4. 特別研修「柑橘類の整枝・せん定」を開催

2月27日、就農支援センターにおいて研修期間中に作業時期等が合わず実施できなかった「柑橘類の整枝・せん定」の特別研修が開催された。この研修には社会人課程と技術修得研修の修了生12名が参加し、温州みかんや八朔、清見などの晩柑類の整枝・せん定を学んだ。午前は講義、午後は実習を行った。みかんのせん定方法を中心に、「八朔は樹脂病にかかりやすい」、「清見は枝が垂れやすい」等、それぞれの柑橘の特性を踏まえた上でせん定する際のポイントについて説明を受けた。

参加した研修生にはすでに柑橘類の栽培を始めている者も多く、「この特別研修で学んだことをすぐに自分の経営に活かしていきたい」という積極的な意見が多かった。



講義



せん定実習

X 経営支援課（農業革新支援センター）

1. 県4Hクラブ連絡協議会が全国農業青年交換大会バススクール

和歌山コースを開催

2月14日、15日に和歌山県4Hクラブ連絡協議会（会長：小杉耕平）主催のもと標記イベントが開催された。本イベントは、2月13日から15日に大阪府を中心に開催された平成30年度全国農業青年交換大会の中の行事の一つ。バススクールのコースは本県のほか、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県で開催され、大会に参加した農業青年がそれぞれのコースを選択して参加した。本県には、山形県、栃木県、千葉県、愛媛県から計6名の参加があり、県内のクラブ員との交流を図るとともに、梅産業の紹介、視察を行った。

14日は紀伊田辺シティプラザホテルにおいて交流会を開催し、県外参加者のほか、県内クラブ員ら計50名が参加した。ここでは、食事をしながらの情報交換、梅の種飛ばしゲームが行われた。

15日にはみなべ町内でバススクールが開催され、県外参加者、県内クラブ員ら計25名が参加した。ここでは、紀州梅干館（株）ウメタ）、紀州馬吉農園（園主：山本秀平、みなべ梅郷クラブ）、南部梅林を視察して梅の栽培・加工を紹介し、紀州馬吉農園では園主の他、地元クラブ員から梅干の返し方の実演なども行った。また、道中のバス車内と南部梅林において、みなべ町うめ課の中早主任から紀南地域の梅産業と世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」について説明を受けた。

本イベントを通じて、他県のクラブ員と交流、情報交換ができたことで、県内クラブ員には非常に良い刺激になったと感じた。また、多くのクラブ員から「本当に良い会だった」との声が聞かれたように県内クラブ員同士の交流もこれまでになく活発に行えたようで、このイベントをきっかけに本県の農業を担う若者の活動が盛り上がっていくことが期待される。

経営支援課では4Hクラブで活躍する若手農業者が地域の中核農業者に成長していくよう、今後も会活動への支援を行っていく。



交流会後に集合写真



紀州馬吉農園の視察

2. むらとくらしを考える会議を開催

2月19日、県は、県生活研究グループ連絡協議会（会長：宮地スミ子）と共催で「次世代につなぐ食と農～地域の魅力を再発掘～」をテーマに、むらとくらしを考える会議を自治会館（和歌山市）で開催した。当日は、活動事例発表や講演があり、約150名が参加した。

活動事例発表では、橋本市生活研究グループ連絡協議会から地元特産物の柿の消費拡大・や郷土料理の伝承活動について取組紹介があった。発表者の小林由美子氏は、今後も調理体験や交流イベントを通じて食と農の大切さを多くの人に伝えていきたいと抱負を語っていた。また、今年度の近畿農政局男女共同参画優良事例表彰受賞者である吉本久美氏（和歌山市）からは、ブドウの直売・宅配事業による経営改善をはじめ、地元園児等を招待した収穫体験の実施や農業後継者の研修受入等活動の紹介があった。

午後からは、「次世代に伝え継ぎたい和歌山の家庭料理と食育」と題して、大阪夕陽丘学園短期大学キャリア創造学科長で教授の青山佐喜子氏から講演があり、県内の食文化調査をもとに特徴的な郷土料理の紹介や食育活動の重要性とポイントについて説明があった。

他に、各地方から加工品や農産物の展示即売会も行われ、参加者は積極的に情報や意見を交換し、交流を深めていた。

これを契機に、食育をはじめ、地域活動のステップアップにつながることを期待している。



宮地会長 開会挨拶



講演(講師：青山佐喜子氏)

3. 全国青年農業者会議において県内の4Hクラブ員が農林水産省経営局長賞を受賞

2月26日、27日に全国農業青年クラブ連絡協議会（会長：竹本彰吾（石川県））主催のもと、東京都代々木オリンピックセンターにおいて標記会議が開催され、和歌山県4Hクラブ連絡協議会（会長：小杉耕平）からクラブ員4名が参加した。全国からは農業青年を中心に約450名が参加した。

本会議は、日本農業の担い手として、農業や農村生活環境の改善等を実践している若者たちが、体験した成果をお互いに発表しあい、当面する問題の解決方法や発展方向を見出だすとともに、農業を取り巻く諸問題を討議して、新しい農業及び農村の創造に資することをねらいとして毎年開催しているもので、全国各地域の代表者からプロジェクト発表、意見発表が行われた。

本県からは、湯浅町4Hクラブの井上信太郎氏がプロジェクト発表・地域活動部門で近畿地域代表として発表を行い、第2位となる農林水産省経営局長賞を受賞した。発表課題は「農村の新たな担い手と産地のファンづくり～農村ワーキングホリデーの可能性～」で、2月13日に大阪府で開催された近畿地域農業青年会議において県代表として発表し、近畿農政局長賞（最優秀賞）を受賞して近畿地域代表として選抜されていた。今回、各地域からの選抜者のレベルの高い発表の中、高評価をいただいたことで、井上氏には励みになったと思われ、今後の活動に益々意欲的に取り組み、発展することが期待される。

また、本会議における本県クラブ員の発表及び受賞は3年連続となり、毎年優れたプロジェクト活動が実践されていることが伺えるとともに、今後の活動に大いに励みになるものと思われる。



井上氏の発表



井上氏（下段中央）を囲んで

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489